

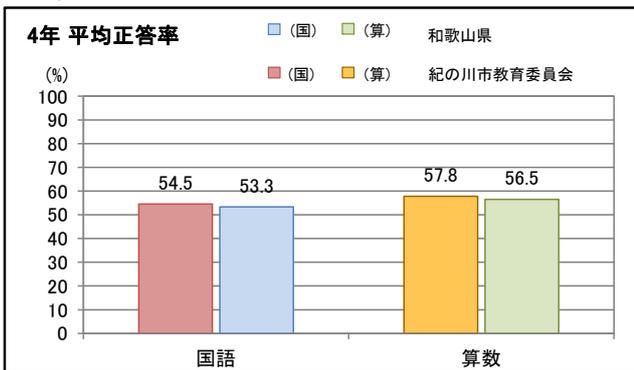
○教科別平均正答率と無解答率

	4年				5年					
	平均正答率 (%)		無解答率 (%)		平均正答率 (%)			無解答率 (%)		
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	理科	国語	算数	理科
紀の川市	54.5	57.8	5.0	4.3	51.5	62.3	58.1	6.3	1.8	1.1
和歌山県	53.3	56.5	8.1	4.9	52.6	62.1	58.2	7.3	3.0	1.9
県比	1.2	1.3	-3.1	-0.6	-1.1	0.2	-0.1	-1.0	-1.2	-0.8

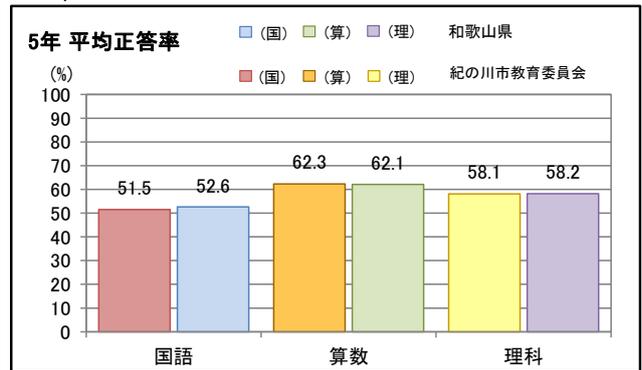
※正答率が県平均を下回る箇所は、朱書きしています。

○平均正答率と解答状況

<4年>



<5年>



○調査結果より

<4年生>国語、算数共に県平均正答率を上回り、概ね学習内容が定着しているといえる。

(国語)・文章の内容を理解し、自分の考えを書く問題は県平均を6ポイント以上上回っている。無回答率から、記述式の問題にもあきらめずに取り組めている様子がうかがえる。漢字の書き、国語辞典の使い方、手紙の書き方などの基礎的な知識や文章を読み取る力をさらにつけていきたい。

(算数)・基礎的な計算力は身につけており、正三角形になる理由を説明する問題では、県平均を9ポイント以上上回った。棒グラフと折れ線グラフから情報を読み取ったり、データを活用して示された事例が正しくないことを説明したりする問題には課題が見られる。

<5年生>平均正答率は県平均と同程度であるが、無解答率は県平均より低く、最後まで諦めずに問題に取り組もうとする姿勢が伺える。

(国語)・記述式の問題にもあきらめずに取り組む、読み取ったことをもとに条件に沿って書く問題では県平均を8ポイント以上上回った。漢字の書き、「読むこと」については情景描写を基に捉えたり、文章全体の構成を捉えて読んだりする力に課題が見られる。

(算数)・全ての問題において県との差はほぼないが、図形の領域では、体積の求め方や、多角形の角の大きさの和の求め方を説明する問題に課題が見られた。

(理科)・「水の状態変化」や「植物の発芽と成長」については県平均を5ポイント以上上回っている。しかし、「電気のはたらき」「月や星の動き」については課題が見られ、学習内容への理解を深めていく必要がある。

○今後の取り組み

基礎基本となる学習については、タブレット端末を積極的に活用し、一人ひとりの学習状況に応じて学習課題を設定したり、量を調整したりし、定着を図っていきます。

また、授業の中で「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を児童生徒に明確に示し、「できて嬉しい」「分かって嬉しい」を積み重ねていけるような授業づくりを学校全体で取り組んでいきます。

また、「読む」力が身に付くよう、学校図書館の「読書センター」「学習センター」「情報センター」の3つの機能を活用した授業に取り組むことと併せて、自分の考えを書いたり、友達に伝えたりする力が身に付くよう、根拠を基に説明したり、話し合ったりする活動を授業に取り入れていきます。

子供達の学習内容の定着を図るためには、家庭学習は欠かせません。保護者の皆様には、端末を活用した宿題や予習復習などに取り組むための環境整備と学年×10分+10分を目安として家庭学習の時間確保へのご協力をお願いします。